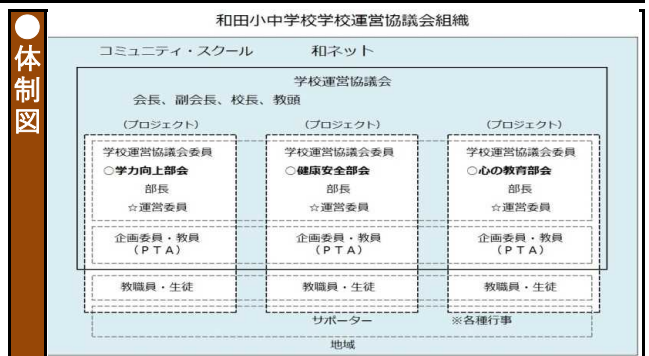


学校と地域が”共に”元気になる、和ネット ～持続可能な和田地域をめざして～

山口県周南市	●活動名	●関係する学校名
	和ネット（なごみネット）	周南市立和田小学校 周南市立和田中学校

協働活動開始年度	平成 27 年度	関係学校数	2 校	のべ学級数	9 学級	のべ児童・生徒数	49 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成	放課後子供教室 外部人材を活用した教育支援活動			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	1人			
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
参考URL	http://www.shunan.ed.jp/wadasho/						

●連絡先	周南市教育委員会 生涯学習課	☎ 0834-22-8621
------	----------------	----------------



●活動の概要・経緯

平成24年に和田小学校、和田中学校に学校運営協議会が設置されたが、当時は和田コミュニティ協議会(和田の里づくり推進協議会)に属する各団体の長が形式的に役を担い、実質的な活動までに至らなかった。平成27年5月の小中合同学校運営協議会で、山間過疎地で少子化の進む和田において「なぜ今、コミュニティ・スクールが和田に必要か」を論議し、これから将来の和田を支える人材育成を学校と協力して地域も頑張ることとなった。これを契機に、明確な組織づくりと実践的なプログラムを検討し、活動の実動体となる3部会(学力向上・健康安全・心の教育)の動きが活発になってきた。現在では、年4回の小中合同学校運営協議会、年7回の企画委員会、それに加え毎月3部会の部長会を行っている。関係機関としては、和田の里づくり推進協議会、社会福祉協議会、老人クラブ、民生委員、和田支所、和田市民センターと連携し活動にも広がりが出てきている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①学力向上部会:放課後子ども教室の運営参加。毎月学校の研究授業での授業評価。学校での地域住民向け講座(英会話・絵画教室等)。外部講師授業。地域教育(和田学)支援。高校入試面接指導。
- ②健康安全部会:見守り隊活動。学校環境整備(草刈り等)。夏休みラジオ体操(6地域で実施)。地域と合同の避難訓練。自転車安全点検。和田地区清掃活動。
- ③心の教育部会:定期的な活動として、一輪挿し活動。読み聞かせ活動。地域文化継承として三作神楽を授業に導入。
- ④全体活動:運動会支援。文化祭支援。小中合同駅伝支援。

【実施に当たっての工夫】

学校経営とすりあわせ、具体的な活動方針および活動計画を立案し(P)、毎月計画に沿って部会が動き内容を展開していく(D)。また毎月3部会長会議、企画委員会で1ヶ月の活動状況を確認・反省し(C)、次の活動の微調整を行う(A)。部長会議は3部会の部長に加え小中学校の校長、学校の地域担当教員、そして会長で構成する。企画委員会は、会長、副会長、3部会長、企画委員長、企画委員6人、地域担当教員で構成する。なお年4回の学校運営協議会でPDCAの状況を総括的に検討・協議する。運営委員の多くは、和田の里づくり推進協議会の中心メンバーということから、地域づくりとの関係も深く、和中小中学校コミュニティ・スクール(和みネット)の運営が大きく地域づくりにも繋がっている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

平成27年5月に実質的活動に移り、最初に「広報」と「具体性のある主体的活動」の2件について取り組んだ。コミュニティ・スクールについての理解が地域にほとんどなかったのが、コミスク通信「和田の里」を毎月発行し和田地区全戸に配布した。その中で学校・児童生徒の状況やコミスク活動の実態、そして地域教育力の必要性などを説明してきた。すでに32号を発刊し、その結果、多くの理解者がサポーターという形で生まれてきた。「具体性のある主体的活動」に関しては、これまでできることから着実に実施し、活動の大きな広がりが見えてきた。こうして学校教育に参画していく中で、メンバーの意識の高まりが見えてきた。

● その他

生徒が主体となつての和田地区清掃活動を行った。生徒が企画し、多くのゴミが投げ捨てられている校区内の国道沿いを清掃するとともに、ドライバーへの意識改革を訴えた。協力団体として、コミスク、支所、福祉委員、警察、老人クラブ等80人が活動。



国道沿いの清掃活動とドライバーへの意識喚起



委員、コミスク、老人クラブ、警察、行政、福祉との協働活動